

第5学年1組 図画工作科学習指導案

1. 題材名 線でつくった形 A表現(2) 工作に表す

2. 題材設定の理由

- 本学級の子どもは、表現することが好きで、図画工作科の学習や造形タイムなどで多くの材料や技法にふれ、思い思いに表現活動を楽しんでいる。図画工作科学習についての工作における意識調査では、「ものをつくる活動は好きか」という問いに対して34人中28人が「好き」と感じ、その理由として、「いろいろな形をつくって楽しめるから」「つくっていく内に、作品が何かに見えてくるから。」等と回答している。これまでに、本学級の子ども達は、福岡教育大生との関わりを多くもってきた。7月には、題材「アートの冒険『みたり きいたり さわったり やってみたり』」でアルミ製の板と針金、金槌を使って「アルミニウムの葉っぱ」をつくり、ものづくりの楽しさを味わった。さらに、9月には、陶器を作り、その中にLEDライトを入れて光の美しさを味わう体験もしている。しかし、普段の様子から見ると、発想や構想の段階で思うように活動が進まなかったり、表現意欲が最後まで持続しなかったり、友達と似たような作品になってしまう姿も見られ、自分の表現に十分満足できていない実態がある。このような実態から、材料と触れ合う時間を十分にとることで表したいイメージをふくらませたり、同材料でつくられた作品を鑑賞したりして、自分の表し方の工夫を見付け出し、試行錯誤しながら自分らしい表し方を追求できるようにしたい。
- 本題材は、針金という線材を使って、曲げたりつなげたりしながら、線の組み合わせや動きの面白さ、美しさなどを感じながら、表現を楽しむ活動である。材料のアルミ針金は、意外に軟らかく、触ったときの感触に、驚きや面白さが感じられる。また、線材を曲げてみたり組み合わせてみたりして生まれてきた形から、発想や構想を広げていくという活動には、子どもが、対象の造形的な特徴をとらえる場面や、そこから自分のイメージを広げていく場面が展開されていくため、一人一人の感性が十分に発揮されることが期待できる。さらに、今まで関わってきた学生と鑑賞する場を設定することも大きな意味をもつ。実際に針金アート作品に触れたり、学生に質問したりすることで、興味・関心や期待、自分がつくりだしたいものの新しい見え方への驚きや面白さなどに気付き、そこから思いや発想を膨らませて自分の表現に生かしていくことができる。

<小中連携の視点から>

本題材は、中学校の線材をもとにした表現活動へとつながっていく。対象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、想像したことなどを基に作品づくりをする等、この題材で培った力が生かされていくことになる。

3. 指導上の着眼

【着眼1】題材との出合わせ方に重点をおいた学習展開の工夫

- 本題材の導入時には、アルミの針金の特有の可塑性ややわらかさや加工のしやすさを感じ取ることができるよう、材料に十分に触れる時間を設ける。

- 子どもが、造形的な見方を広め、豊かに発想・構想したり、確かな技法を習得したりすることにつながるように、「であう」「みつける」「あらわす」「あじわう」という一連の学習過程において「みつける」段階の前に「あじわう」（鑑賞タイム）を設ける。鑑賞の対象は、福岡教育大学の学生の針金アートの作品である。この鑑賞は、子どもの表したいものを探っている思考に作用し、針金を使った表現の可能性や方向性を見出すことにつながると考える。

【着眼2】子どもの思いを引き出す言語活動

- 偶然できた形から、さらにつくりたい形へのイメージが広がるように、学生が作った針金アート作品の鑑賞タイムを設ける。鑑賞タイムでは、作品のよさや美しさなどを味わうと共に、表し方の違いのよさや工夫を見付けて伝え合い、自分の表現に生かせるようにする。また、他の作品と自分の作品を見比べることにより、自分のイメージや思いをより鮮明にし、さらに自分の思いをふくらませることができるようにする。

【着眼3】育成する資質や能力を明確にした評価と指導

- 表現したいことがうまく見付けられない子どもには、他の子が表している作品を見せたり、参考作品を提示したりして、対話しながらつくりたいイメージをもてるようにする。自分の表現に自信がもてない子どもには、工夫した点や表したいイメージを聞き出し、そのよさを賞賛したり、アドバイスをしたりする。自分の表したいものに近づけない子どもには、ヒントとなる言葉を投げかけ、自分の表現に生かせるようにする。

4. 目標

造形への 関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ○ アルミ針金のおもしろさや特徴に関心を持ち、ねじったり、曲げたり、切ったりしながら楽しもうとする。 ○ 線の組み合わせからできる形に関心を持ち、楽しんで表現しようとする。
発想や構想の能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 線の組み合わせを試しながら、よさや美しさを考え、表したいイメージを広げることができる。
創造的な技能	<ul style="list-style-type: none"> ○ 材料や用具の特徴を生かした組み合わせを考え、表し方を工夫することができる。
鑑賞の能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 線でできる形の面白さや材料のよさをもとに、自分や友達の表し方の違いに気づき、よさや工夫を見付け、伝え合うことができる。

5. 指導計画と評価計画（総時数6時間）

	主な学習活動	指導の工夫	評価規準（評価方法）
であう	1. アルミ針金の材料に触れ、用具を使って曲げたり、切ったりしながら材料の特徴に関心をもつ。①	<ul style="list-style-type: none"> ○ 線がつながったり囲んだりしてできた形を身の回りから探し、材料の特徴や形のおもしろさを話し合う。 	<p>【関】アルミ針金のおもしろさや特徴に関心を持ち、ねじったり、曲げたり、切ったりしながら楽しもうとしている。</p> <p>（発言・活動）</p>

あじわう・みつける あ ら わ す あ じ わ う	2. アルミ針金で「線が包んだ形」をつくる。 ①	○ アルミ針金は、太さの違うものを用意し、組み合わせながら縦軸と横軸を意識して巻くように声かけをする。 ○ できた形を色々な方向から見て、外側・内側両方の空間に注目させるようにする。	【関】 線の組み合わせからできる形の面白さに関心をもち、楽しんで表現しようとしている。 (発言・活動)
	3. 学生の作品の鑑賞をして、前時までにつくった形をもとに自分が表したいものを見出す。 ① <本時>	○ つくりたい形へのイメージを広げたり深めたりするように、大学生の針金アート作品を鑑賞し、表し方の違いのよさや工夫を見付けて伝え合う活動を設ける。	【発】 針金アートの作品を参考にして、自分の表したいものや表し方を見出している。 (発言)
	4. アルミ針金を使って自分が表したい作品を表す。②	○ 前時につくったものを修正したり、新たにつくり足したりして試行しながら表現を工夫する。	【創】 材料や用具の特徴を生かした組み合わせを考え、表し方を工夫している。 (発言・活動)
	5. 鑑賞会を開き、互いの表し方を味わい、感じたことを伝え合う。 ①	○ 作品の工夫したところを紹介し合うとともに、互いの作品の表し方の違いやよさや工夫を見付けて、言葉で伝え合うようにする。	【鑑】 自他の表し方の違いに気付き、よさや工夫を見付け、伝え合っている。(ワークシート・発言・作品)

6. 本時の学習 平成28年10月4日(火) 第5校時 理科室

(1) 主眼

針金アート作品を鑑賞し、線材の表し方のよさや美しさ、工夫を見付けて伝え合う活動を通して、より表したいイメージをもって自分の表現に生かすことができるようにする。




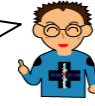


(2) 準備

- ① 教師 アルミ線針金、アート作品、ラジオペンチ
- ② 子ども はさみ

(3) 本時でめざす子ども像

- 針金アート作品から線材の表し方の形や美しさ、工夫をとらえることで、自分の表したいイメージを広げたり深めたりして、表したいものを見い出そうとする子ども 【発想や構想の能力】

(4) 展開

主な学習活動	○ 指導上の工夫 【観点】 評価規準（評価方法）
<p>1. 前時に表したのを見合い、それぞれのよさや特徴をとらえ、本時のめあてを確かめる。</p>	<p>○ 本時のめあてに向かう思いをもつことができるように、前時に表した作品を色々な方向から見るように促す。</p> <p>○ 表したいもののイメージがはっきりと浮かんでこない子どもや、表し方につまづいている子どもの思いを引き出し、めあてへとつなぐようにする。</p>
<p>めあて 針金アートの作品を参考にして、自分の表したいものや表し方を見つけよう。</p>	
<p>2. 針金アート作品を鑑賞し、気付いたことや感じたことを話し合う。</p> <p style="text-align: center;">【言語活動】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: flex-start;"> <div style="width: 45%;"> <p> 本物みたいですごい！ 同じ針金でここまでできるんだあ。</p> <p> 針金の曲げ方やつなげ方はどのようにしたのだろう。</p> <p> この作品の中で、工夫したところはどこですか？</p> <p> なるほど！ぼくも新たにやってみようっと。</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p> 私は、魚の形にしていこう。少し太い針金を使って、ひれをつくろう。</p> <p> ぼくは昆虫の形にしよう。触覚部分は、針金を巻き付けてつくろう。</p> </div> </div> <p>3. 自分の表したいイメージを探りながら形をつくる。</p> <p>4. 本時の振り返りをし、次時への見通しをもつ。</p>	<p>○ 子どもたちの鑑賞への興味や関心を引き出すために、学生の針金アート作品を布で覆っておく。</p> <p>○ より自分の表したいイメージをふくらませられるように、材料や作品に触れたり、いろいろな角度から観たりする時間を十分にとる。</p> <p>○ 作品のよさや作者の思いや制作上の工夫点などをとらえることができるように、感じたことを自由に発言したり、作者に尋ねたりする時間を設ける。</p> <p>【鑑】 線でできる形の面白さや材料のよさをもとに、自他の表し方の違いに気付き、よさや工夫を見付け、伝え合っている。 （発言・行動分析）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◆ 発想や構想の能力面でのつまずきに対して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 活動が進まない子どもには、友達が表している作品を見せたり、参考作品を提示したりして、一緒に対話しながらつくりたいイメージをもたせる。 ・ 自分の表現に自信がもてない子どもには、工夫した点や表したいイメージを聞き出し、そのよさを賞賛したり、アドバイスをしたりしながら表現できたことへの成就感を味わわせる。 ・ 自分の表したいものに近づけない子どもには、「どこをどんな風にしたい？他の種類の針金を組み合わせるとどんなことができるかな？」と投げかけ、表現へとつなげる。 </div> <p>○ 自分の表したいイメージがよりふくらむように、自由に学生の作品に触れたり、質問をしたりしてよいことを伝える。</p> <p>【発】 針金アートの作品を参考にして、自分の表したいものや表し方を見付け、表そうとしている。 （発言）</p> <p>○ 次時に向けての表現の意欲がさらに高まるように、初めと比べて著しく変容した作品を子どもの思いとともに紹介し、そのよいところを認め合う場をもつ。</p>

